

和文論文

2015

1. 英 賢一郎、他:短期間に再出血を繰り返した脳幹部海綿状血管腫の 2 手術例. 脳卒中外科 43:63-67、2015
2. 小山哲男:リハビリテーション科における疼痛性疾患の診療-テキスト・マイニングを用いた解析の試み-. Practice of Pain Management 6, No. 3:148-155, 2015
3. 小山哲男:脳の可塑性と皮質の再編成 -使用依存性可塑性-(ニューロリハビリテーション 道免和久編 医学書院):10-21, 2015

4.

2013

5. 三宅裕治:特発性正常圧水頭症術後患者に対する音楽療法の試み. 厚労科研「特発性正常圧水頭症の病因・病態と診断・治療に関する研究」H25 年度 総括・分担研究報告書:54-55、2013
6. 三宅裕治、小山哲男:特発性正常圧水頭症の診断医における拡散テンソル法 MRI の臨床的有用性および特発性正常圧水頭症に対する音楽療法の有用性に関する研究. 厚労科研「特発性正常圧水頭症の病因・病態と診断・治療に関する研究」H23-25 年度 総合研究報告書:65-66、2013
7. 三宅裕治、小山哲男:特発性正常圧水頭症の MRI 拡散テンソル法(DTI)脳画像:脳梁 FA 低値と臨床症状の関連. 厚労科研「特発性正常圧水頭症の病因・病態と診断・治療に関する研究」平成 24 年度 総括・分担研究報告書:53、2013
8. 三宅裕治:シャントシステム(小児脳神経外科診療ガイドブック 編 新井 一、伊達裕昭、西本 博 メジカルビュー社(東京)):60-63, 2013
9. 小山哲男:脳卒中リハビリテーションにおける画像診断の進歩-拡散テンソル法 MRI の予後予測への応用-. Monthly Book Medical Rehabilitation 161:29-40, 2013
10. 小山哲男:第 II 部 脳卒中機能予後予測 第 6 章 最近の研究動向-MRI 拡散テンソル法画像(DTI)-(脳卒中機能評価・予後予測マニュアル 編 道免和久 医学書院):170-184, 2013

2012

11. 伊藤誠康、他:遅発性に発症した外傷性視神経障害の 1 例. 脳神経外科ジャーナル 22, No. 2:134-140, 2012
12. 三宅裕治:シャント手術. Clinical Neuroscience 30, No.4:429-431, 2012
13. 三宅裕治:Treatable Dementia-iNPH の全て-. 西宮市医師会医学雑誌 Vol. 17:1-5, 2012
14. 西村瞬 内田健作 小山哲男 水谷早苗:脳卒中ケアユニット(SCU)におけるリハビリテーションの実践. リハビリナース 5, No. 2:181-187, 2012

2011

15. 三宅裕治:小児水頭症治療の現状—全国アンケート調査から;PartII—. 小児の脳神経 36, No. 4:392-394, 2011
16. 三宅裕治:iNPHの治療. Brain Nursing 27, No. 12:80-83, 2011
17. 三宅裕治、水谷早苗:治療可能な認知症. Expert Nurse 27, No. 1:64-67, 2011
18. 小山哲男、道免和久:特集 脳卒中リハビリテーションの新しい展開 ADL 評価・訓練. 総合リハビリテーション 39, No. 12:1157-1164, 2011

2010

19. 白根礼造、林 俊哲、三宅裕治、他:髄液シャントシステムの温故知新. Jpn J Neurosurg (Tokyo) 19, No. 7:510-517, 2010
20. 三宅裕治:小児水頭症治療の現状—全国アンケート調査結果から—. 小児の脳神経 35, No. 1:88-91, 2010

2009

21. 小山哲男:機能予後予測を中心に据えた画期的な地域連携パス ～西宮協立脳神経外科病院～. 病院新時代 40:14-16, 2009
22. 小山哲男:機能予後予測を中心に据えた画期的な地域連携パス ～西宮協立脳神経外科病院～. 病院新時代 40:14-16, 2009
23. 小山哲男:脳卒中患者の機能予後予測と地域連携パス. Japanese Journal of Rehabilitation Medicine 46, No. 2:108-117, 2009
24. 小山哲男:痛みと思い込みの脳生理学 —ニューロン活動と機能的脳画像—. 日本歯科麻酔学会雑誌 45, No. 3:355-362, 2009

2008

25. 三宅裕治:シャント治療の現状と課題. 小児の脳神経 33, No. 6:507-517, 2008

2007

26. 中島 匡、西村 裕之、他:MLF症候群と運動失調にて発症した中脳梗塞の1例. 脳卒中 29, No. 3:479-482, 2007
27. 小山哲男、道免和久:脳卒中リハビリテーション地域連携パスの試案. リハビリテーション科診療 7, No. 1:13-19, 2007

2006

28. 三宅裕治:正常圧水頭症の病態とメカニズム. CLINICAL REHABILITATION 15, No. 2:111-116, 2006

2005

29. 三宅裕治:特発性正常圧水頭症の診断・治療. 日本医事新報 4241:20-25, 2005
30. 三宅裕治:特発性正常圧水頭症の治療. 脳 21 Vol. 8, No. 2:78-82, 2005
31. 三宅裕治、辻 雅夫、浮田 透、他:特発性正常圧水頭症の画像診断. 内科 95,

No. 5:814-819, 2005

2004

32. Miyake H, Tsuji M, Hiramoto N, et al: Development of a New Irrigation Sucker for Microneurosurgery -Technical Note-. *Neurol Med Chir (Tokyo)* 44, No. 8: 441-445, 2004

2003

33. 辻 雅夫、高橋一浩、平本直之、他: 病初期に MRI diffusion-weighted image 変化を捉えられた Creutzfeld-Jacob 病の 1 例. *脳と神経* 55, No. 9: 806-807, 2003
34. Kawanishi M, Yoshida Y, Miyake M, et al: Cerebral Venous Sinus Thrombosis in a Patient With Ulcerative Colitis. *J of Stroke and Cerebrovascular Diseases* 12, No. 6: 271-275, 2003
35. 大村武久: 西宮協立脳神経外科病院における取り組み. *脳神経外科速報* 13, No. 3: 318-322, 2003

2002

36. 三宅裕治: 意識障害の判断から得られる患者情報とは? *総合脳神経ケア準備号* Vol. 1: 34-37, 2002
37. 平本直之、三宅裕治: 意識障害の評価. *総合脳神経ケア* Vol. 1, No. 5: 42-46, 2002
38. 辻 雅夫、三宅裕治: 刺激の正しい加え方と評価法. *総合脳神経ケア* Vol. 1, No. 4: 62-66, 2002
39. 三宅裕治: 瞳孔・眼球運動・視野の計測法. *総合脳神経ケア* Vol. 1, No. 3: 48-54, 2002
40. 三宅裕治: グラスゴー・コーマ・スケールの正しい計測法と注意点. *総合脳神経ケア* Vol. 1, No. 2: 58-62, 2002
41. 三宅裕治: ジャパン・コーマ・スケールの正しい計測法と注意点. *総合脳神経ケア* Vol. 1, No. 1: 57-61, 2002
42. Miyake H, Kajimoto Y, Ohta T, et al: Managing subdural fluid collection in infants.. *Child's Nerv Syst* 18: 500-504, 2002

2001

43. 三宅裕治、青木 淳、梶本宜永、他: 人工血管による頭蓋外頸動脈再建術—4 例報告—. *脳神経外科* 29, No. 12: 1207-1212, 2001

2000

44. 小畑仁司、田中英夫、三宅裕治、他: 重症くも膜下出血に対する可及的早期手術の有用性. *脳卒中の外科* 29: 196-202, 2000
45. 三宅裕治: 小児脳神経外科の ABC 8. 小児硬膜下水腫 (Subdural Fluid Collection). *小児の脳神経* 25, No. 2: 110-119, 2000

46. 三宅裕治、太田富雄: 日常診療に必要な薬剤の知識とその使い方—抗てんかん薬—. 外科治療 82, No. 4:486-490, 2000
47. 三宅裕治: 頭皮下レザバーの管理. ポケット版・脳神経外科ケアマニュアル(大井静雄編著)、照林社、東京:153-156, 2000
48. 三宅裕治: 脳槽ドレーンの管理. ポケット版・脳神経外科ケアマニュアル(大井静雄編著)、照林社、東京:150-152, 2000
49. 三宅裕治: 脳室ドレーンの管理. ポケット版・脳神経外科ケアマニュアル(大井静雄編著)、照林社、東京:147-149, 2000
- 50.